

動けなくなることで、
見えてきたもの

はばたきの丘☆映画会 「風は生きよという」^{字幕付}

2017年3月28日(火)
13:30~15:30 (受付 13:00~)

13:30~ あいさつ
ミニトーク「呼吸器ってナニ？」
呼吸器ユーザー 大森篤史 氏
14:10~ 映画上映 (81分)

主催：映画上映会実行委員会
共催：三木市立障害者総合支援センター はばたきの丘

風は生きよという

中央大裕 監督作品

呼吸器から吹く風に乗る、つながりあう人と人との物語

監督・撮影・編集・ナレーション：中央大裕 音楽：末森樹 整音：米山靖 アニメーション：植田秀蔵 撮影協力：神吉良輔 高橋慎二

宣伝写真：齋藤陽道 宣伝デザイン：玉利公節 助成：公益財団法人キリン福祉財団 企画・製作：全国自立生活センター協議会

配給：「風は生きよという」上映実行委員会 2015年/日本/81分/ドキュメンタリー

www.kazewalkiyotolu.jp

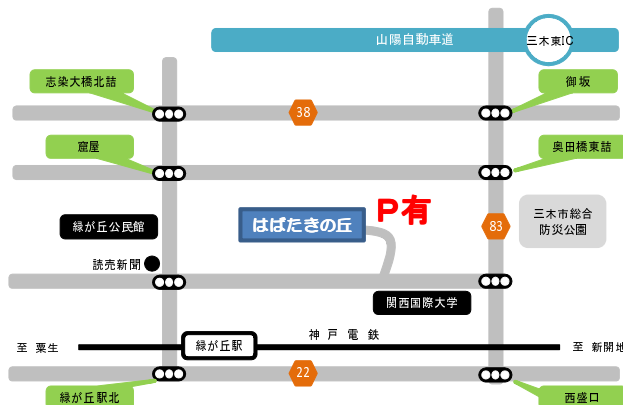
会場：三木市立障害者総合支援センター **《駐車場あり》**
はばたきの丘 地域交流室 (志染町青山 1-25)

定員：30名 (要申込・先着順)

料金：100円(当日払い) 0~6才の未就学児は無料
収益は「呼ネット」[※]の活動資金として全額寄付させていただきます

申込方法：裏面申込書をFAX、または直接
お持ちください (電話も可)

お問合せ先：FAX 0794-68-9006
TEL 0794-68-9005



※呼ネット…人工呼吸器を使用している地域で当たり前暮らせる社会を実現するために、09年人工呼吸器使用者で立ち上げられた団体



←映画予告編
YouTubeへgo!

宍戸大裕 監督作品

風は生きよという



配給：「風は生きよという」上映実行委員会 2015年/日本/81分/ドキュメンタリー

人工呼吸器ユーザーの生活。 あなたはどんなイメージがありますか？

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かせなくなったとしたら、どんな人生を想像しますか？

映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用していることくらい。

人工呼吸器。ひと昔前、それは巨大な鉄の箱で出来ていた。こんなものに頼るならいっそ死んだ方がましーそう思われるには、十分すぎる見た目だった。

いま、呼吸器はお弁当箱に様変わり。散歩も旅行も買い物も、ひとり暮らしさえも可能にしてくれた。呼吸器からは、休みなく空気が流れてくる。「シュー、シュー」と、まるで風のように。

淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援が必要だからこそ、多くの人に出会い、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。じんわりとこころを揺する、人と人とが織りなす物語。

もしもあなたに、思うように身体を動かさない、そんな日が来た時は思い出してほしいのです。映画の中を駆け抜けていた、風の音を。その風に包まれた人と人々が、支えあいながら生きていたことを。



「出来ないことがずいぶんたくさんある中で、障害者が出来る大きい仕事っていうのは、外に出て人目について、人の意識の中に障害者の存在を、ちよこでも根付かせていくこと」

はばたきの丘☆映画会 参加申込書 (FAX:0794-68-9006)

お名前	(日中連絡可能な)ご連絡先
参加人数	人 お子様連れ(0~6才の未就学児)ですか? ⇒ はい(人) ・ いいえ
車いすをご利用ですか?	⇒ はい(人) ・ いいえ